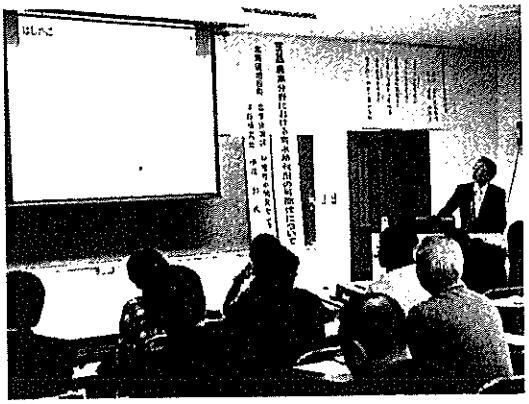
平成24年11月15日（木）
山形新聞朝刊より

雪氷熱エネの利用
地域の連携が必要
新庄でセミナー

ことし3月の県エネルギー戦略策定を受け、新庄最上地域で有望な雪氷熱エネルギーの利活用策を学ぶセミナーが14日、新庄市の県立農業大学校で開かれた＝写真。雪氷熱利用の農産物冷温貯蔵で先進的な取り組みを進めている北海道沼田町の職員が講演し、「雪国の連携を強化することが必要」と述べた。



講演したのは同町農業振興課の伊藤勲さん。伊藤さんは同町で導入している雪冷房のコメ貯蔵やイチゴ、シイタケの施設栽培を紹介。特にコメ貯蔵について、「（10度以下の）雪冷房貯蔵庫なら5年経過しても新米の状態を保っている」と説明した。

費用面で考えると、電気冷房より割高な面があることにも触れ、原因として「豪雪地帯に住む人は全国の一部にすぎないことから、多くのメーカーは開発に力を入れていない」と指摘。その上で、「雪国に住む人たちで独自にシステムを開発する必要がある。そのためには雪国同士が連携することが必要」と訴えた。